

研究開発課題概要書

1. 課題名(期間)

地区レベルでの防犯性向上に関する研究(平成 16年～ 18年)

2. 主担当者(所属グループ)

樋野 公宏(住宅・都市研究グループ)

3. 背景及び目的・必要性

年々悪化する治安に対し、防犯の視点を取り入れた住宅の開発が進められつつあるが、個別建物の防犯対策にあわせ、複数の建物、道路、公園などを含めた地区レベルでの防犯対策についても、その必要性が認識されつつある。米国では、従来の CPTED(防犯環境設計)に「地域社会の育成」という視点を加えた「第2世代 CPTED」と呼ばれる考え方が発展しており、地区レベルの防犯、物的環境の維持管理段階での防犯を進めるに当たって、我が国のまちづくりに示唆するところも多い。

このような背景を鑑み、本研究は、ハード・ソフトを組み合わせた、地区レベルでの防犯性評価手法を開発するとともに、改善のためのガイドラインを提示することを目的とする。

4. 研究開発の概要・範囲

- ・住民参加型の事例調査等による地区レベルの犯罪及び不安感発生要因の分析
- ・海外諸制度の整理分析、第2世代 CPTED 適用事例の研究
- ・地区レベルでの防犯性評価手法の開発と試験的運用
- ・先進事例集を含む防犯性向上ガイドラインの作成

5. 達成すべき目標

- ・国・自治体等が活用可能な、地区レベルでの防犯性評価手法の開発、改善のためのガイドラインの作成。
- ・自治体やまちづくり団体が活用可能な防犯まちづくりの先進事例集の作成、WebGIS を用いた防犯まちづくり支援システムの開発。

6. 進捗状況(継続課題のみ)

防犯性評価については、主に犯罪不安に焦点を当てて調査・研究を進めている。公園における犯罪不安要因に関する研究は調査結果を論文に取りまとめた。また、地区レベルでの犯罪不安に関して、板橋区の小学校区をモデル地区に住民参加型の調査を行い、現在分析中である。17年度のモデル地区とも調整を進めている。

住民による防犯まちづくり支援システムについては、上記モデル地区への投入にあたり東京大学のシステムをベースに開発を行ったが、そこでの課題を踏まえてさらにユーザビリティの高いものへと改善中である。